

なゆた望遠鏡で見る冬の天体

大岩あすか・杉本陽南乃・高倉梓
(兵庫県立三田祥雲館高等学校自然科学への誘い1班)

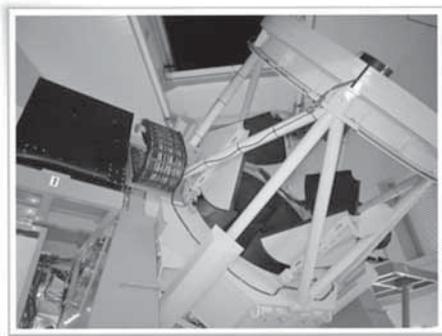
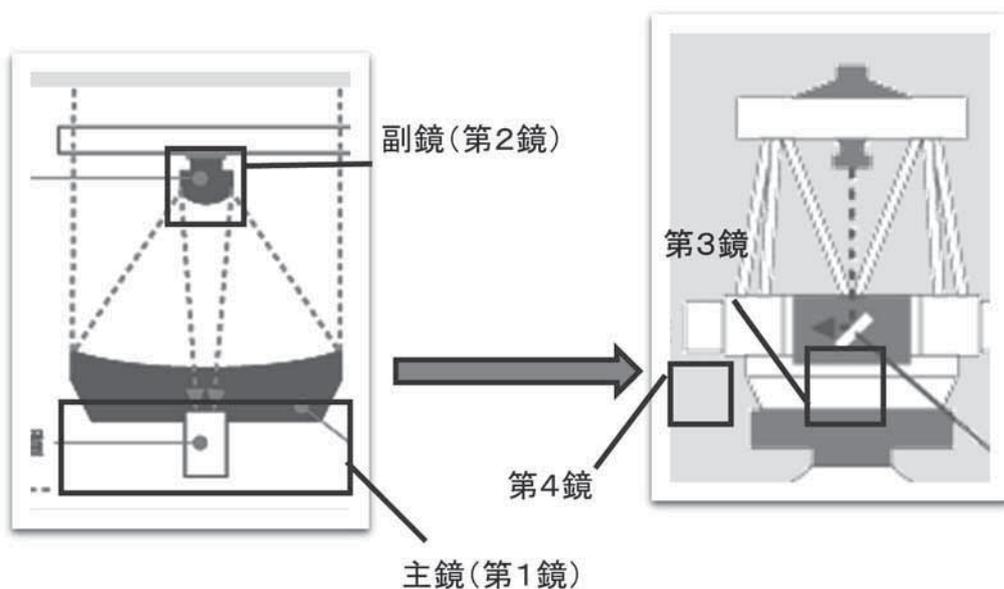
なゆた望遠鏡とは

なゆた望遠鏡は、天体から光を集める鏡（主鏡）の直径が2メートルあり、国内最大である。また、このような大きな望遠鏡で定例の一般観望会を行うものは、世界に例を見ない。

“なゆた”とは、古代インドのサンスクリット語で“きわめて大きな数”を意味する。この名前は公募によって名づけられ、広大な宇宙を観測する望遠鏡になってほしいという意味がこめられている。

なゆたで星が見える仕組み

なゆた望遠鏡はまず、主鏡（第1鏡）に光を集め、副鏡（第2鏡）に反射する。そして副鏡から第3鏡へ光を送り、さらに第4鏡に光を送る。このようにすると眼視観望装置という天体を直接見ることが出来る装置で天体を観察することが可能だ。



今回の観察

今回私たちは9つの天体（木星・アルデバラン・カペラ・ガーネットスター・青い雪玉星雲・M45等）を観察した。そして、そのうち木星・アルデバラン・カペラの3つについて調べた

<木星 Jupiter >

太陽系の5番目の惑星。惑星の中で最も大きく質量は地球の318倍もある。

特徴：赤道に平行な縞模様が表面に見られる
64個の衛星と3本の淡い環をもつ



<アルデバラン Aldebaran >

星座：牡牛座

意味：後に従うもの（アラビア語）

色：赤橙色

距離：52光年 = 約500兆km

特徴：表面温度3300



<カペラ Capella >

星座：御者（ぎょしゃ）座

意味：雌ヤギ

色：黄色

距離：45光年 = 約400兆km

特徴：全天で6番目に明るい恒星



感想

なゆた望遠鏡は、通常の望遠鏡と同様にレンズが内蔵されているのではなく、複数の鏡で構成されていることは非常に興味深かった。また、これからますます技術の進歩により、私たちの住む地球の外、遥か遠くにある星のことが、解明されていくだろう。

今後私たちは、より宇宙について関心を持つべきだと思う。